

はじめに

キリスト教会は、三つの記念日をもっています。クリスマス（御子の誕生）、イースター（御子の復活）、そしてペンテコステ（聖霊の降臨）です。

人間を救おうとされる神様の「救いのご計画」は、旧約時代と新約時代に分けられます。神の御子イエス・キリストがお出でになり、新約時代となりました。新約時代は、イエス様がこの世においてになり、十字架と復活により人間の救いを成し遂げてくださいました。イエス様は、そのみわざを終えて天にお帰りになるとき、父なる神様がイエス様に代わる「もうひとりの助け主」をお遣わしになることを約束なさいました。そして、その助け主は、50日後のペンテコステの日に弟子たちにくだったのです。そのことは、「使徒の働き」2章に詳しく書かれています。

その日から、「聖霊の時代」になったといえるでしょう。では、聖霊は、どのような方どのような働きをなさるのかを学んでみましょう。

1. 遣わされる以前の聖霊。

聖霊は、突然に現れたのではありません。初めからおられたのです。そして、おいでになる前にも働いておられました。

(1) 三位一体の神。

聖書が教える神の最大の特徴は何でしょう。それは、神は「三位一体の神」であるということです。それは、神は永遠に、父、子、聖霊として存在されるということです。

適用：神はいくいつもあると考えるのが、多神教です。その神々は人間が作ったか、考え出したものです。それに対し、一神教というのがあります。それは、神は唯一であるというものです。一神教は、聖書から出ていて、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教がそれです。その中でキリストだけが「三位一体の神」を教えます。ユダヤ教もイスラム教も神は唯一であると信じますが、イエス様を神と信じないのです。キリスト教は、イエス様を神と信じます。そして「もうひとりの助け主」も神ですから、そこに父、子、聖霊の神、つまり三位一体の神ということになります。

では、今日のテーマである聖霊は、初めから存在しておられたのでしょうか。創世記1章1、2節を見ると、「初めに、神が天と地を創造した。地は茫然として何もなかった。やみが大水の上であり、神の霊が水の上を動いていた」とあり、そこに神の霊の存在と働きを見るのです。

さらに、2章7節を読むと、「神である主は土地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで人は生きものとなった」とあります。さらにヨブ記33章4節にはこうあります。「神の霊が私を造り、全能者の息が私にいのち

を与える」。

聖書は、神の霊は、人を造り、いのちを与えるものと教えています。

(2) 知恵と力を与える聖霊。

神の民をエジプトから救い出したモーセの後継者となったのがヨシュアでした。彼は「神の霊の宿っている人」と言われています（民数記 27:18）。神の事を知り、神の知恵を得ている人でした。それは、神の霊が宿っているからでした。

ヨシュアの時代の後、「さばきつかさ」の時代になります。オテニエルが起こされた時、「主の霊が彼の上にあった」と書かれています（士師記 3:10）。ギデオンについては、「主の霊がギデオンをおおった」と記されています（6:34）。さらにサムソンの場合は、「主の霊が激しく彼の上にくだった」のです（15:14）。

このように、イエス様がおいでになる前にも、聖霊は働かれてお出でになります。ただ、それは特別な人に、特別な場合に臨んだのです。

しかし、イエス様の代わりにお出でになる聖霊は、すべてイエス様を信じる人に与えられます。

2 遣わされてからの聖霊。

(1) その存在のあり方

イエス様に代わる聖霊は、その存在の仕方も働きも、旧約時代とは違います。

聖霊は、イエス様に代わる方として、「いつまでもあなたがたとともにおられるため」に遣わされたのです。聖霊は、「あなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられる」のです（ヨハネ 14:17）。聖霊は、イエス様を信じると同時に、その人とともに、その人のうちにおられるのです。

適用：聖霊は、信じる者とともに、信じる者のうちにおられますが、そのことを信者がみな知っているとは、限りません。聖霊は特別な信者にだけ与えられるとっていたり、聖霊を受けるためには、特別な祈りや信仰が必要であると考えている人もいます。

コリント教会の人も別の意味で、聖霊が自分たちのうちにおられることを知りませんでした。そこで使徒パウロは、こう指摘しました。「あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか」（I コリント 3:16）。「あなたがたからでは、あなたがたのうちに住まれる聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものでないことを知らないのですか」（I コリント 6:19）。

聖霊は、信じるすべての人とともに、人のうちにおられるのです。

(2) その働き

① すべてのことを教える。

聖霊の働きの第一は、人々にイエス様のことを教えることです。イエス様はこう言われました。「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます」（ヨハ 14:26）。

適用：実は、私たちは自分の知識や意志や感情で、イエス様を告白することはできないのです。使徒パウロはこう言っています。「聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主です』と言うことはできません」（Ⅰコリ 12:3）。

イエス様は言われました。「人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることができません」（ヨハ 3:5）。私たちが救われて、信仰に入るために、聖霊の働きが必要なのです。

パウロはこうも言っています。「神は『アバ、父』と呼ぶ、御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいました」（ガラテヤ 4:6）。

祈りを教え、神にとりなしてくさださるのも聖霊です。「御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない、深いうめきによって、私たちのためにとりなしてくださいます」（ロマ 8:26）。

② キリストに似たものに変える。

イエス・キリストを信じるとき、私たちの罪は赦され、神様に受け入れられて神の子になります。そして神の家族である教会に加えられます。しかし、罪はまだ残ります。そこで、その罪をきよめられ、神様の子にふさわしい者に変えられる必要があります。

それをしてくださるのが聖霊です。これはキリスト者の「聖化」と言います（ロマ 8:2-4 Ⅱコリ 3:18）

御霊は、信徒のうちにその実を結んでくださいます。「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」（ガラテヤ 5:22-23）。

適用：私たちは、自分の力で自分をきよめ、罪を犯さないようにすることは出来ません。神様がお遣わしになった聖霊が、私たちのうちにあって私たちをキリストに似た者に変えてくださるのです。これを「聖霊の聖化の働き」と言います。聖霊が私たちをきよめてくださるです。

③ キリストの証人とする（使徒 1:8）。

聖霊が遣わされたのは、私たちを教え、きよめるためですが、もう一つ大切な

お働きがあります。それは「信じる者をキリストの証人とすること」です。イエス様の救いは、それを伝える者がいなければ伝わりません。キリストの証人になることは、私たちの力ではできません。神様からの力、聖霊の力が私たちをキリストの証人にします。

聖霊がくださった後、キリストの弟子たちは、厳しい迫害をもろともせず、ユダヤ全国だけでなく、ローマ帝国に広くキリストの福音を伝えました。その後は全世界に広まったことは、皆さんもよくご存じの通りです。

例話：私は、森牧師の車によく乗せて貰いました。先生は、おおまかな方で、ガソリンが入っているかどうかを余り気にしないようでした。横浜から東京に行くのに第3京浜という高速を使うことが多いのですが、ある日それに乗ったとたん、先生が「ガソリンがほとんどない」と言うのです。約10キロを走るのに、いつ停まると冷や冷やでした。何とか、高速を降りると、すぐにガソリンスタンドがありました。そこにたどりつく、10分前で、動かなくなってしまいました。仕方なく、先生と二人で車を押してスタンドに着きましたが、店員に笑われただけでなく、厳しく注意されました。

どんなに立派なクルマでも、ガソリンがなければ動きません。

聖霊に満たされなければ、私たちキリスト者は主のために働くことは出来ないのです。

3 二つの命令

聖霊に関して、聖書は二つの命令をします。

(1) 御霊によって歩みなさい（ガラヤ 5:16）。

(2) 御霊に満たされなさい（Iコリ 5:18）。

この二つの命令は、私たちが、自分の力ではなく、御霊に「より頼み」「御霊に支配され」「御霊に従って」歩むことを教えています。それなしには、神様の望むような生活は送れないし、主をあかししていくことも出来ないのです。

結論

聖霊様は、神として、父なる神、子なる神とともに永遠に存在しておられました。そして、子なる神キリストがそのわざを終えて天にお帰りになった後、キリストに代わる「もうひとりの助け主」として、神様がお遣わしく下さいました。

聖霊なる神は、いま、人々をイエス様へと導き、イエス様を信じる者とし、キリストに似たものに変え続けてくださり、キリストの証人としての力をお与えくださいます。